

2020年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 情報福祉マネジメント学科

情報福祉マネジメント学科では、カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢振り返り」として「1. アクティブラーニングを取り入れた多様な教育科目を受講し、主体的な学びを行っている」「2. ポートフォリオを作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理、振り返りに取り組んでいる」「3. ユニバーサルパスポートを活用し、教員の双方向のコミュニケーションを密にすることで学修成果を高めようと取り組んでいる」「4. PBL(Project and Problem Based Learning)に取り組み、高度な問題発見・問題解決能力を養っている」「5. 知識・技術の確実な定着のために、講義科目のみでなく、実習科目にも取り組んでいる」の4項目を6件法によって調査することで、学科 教育課程の編成・実施の方針に照らしたカリキュラムの適切性の検証を実施した。（回答数：398）

6件を1～6点に変換し、平均値、「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」（以下、「そう思う」以上）と回答した者、および、「全くそう思わない」と回答した者の全体に対する割合は、それぞれ、下記の通りであった。なお、カッコ内は2019年度の結果（回答数：128）を示している。

1. アクティブラーニングを取り入れた多様な教育科目を受講し、主体的な学びを行っている（図1 平均値：3.64（3.74））
「ややそう思う以上」 60.1 %（61.7 %）
「全くそう思わない」 6.5 %（3.9 %）
2. ポートフォリオを作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理、振り返りに取り組んでいる（図2 平均値：3.40（3.72））
「ややそう思う」以上 51.0 %（58.6 %）
「全くそう思わない」 10.3 %（2.3 %）
3. ユニバーサルパスポートを活用し、教員の双方向のコミュニケーションを密にすることで学修成果を高めようと取り組んでいる（図3 平均値：3.88（3.91））
「ややそう思う」以上 68.6 %（67.2 %）
「全くそう思わない」 3.3 %（1.6 %）
4. PBL(Project and Problem Based Learning)に取り組み、高度な問題発見・問題解決能力を養っている（図3 平均値：3.41（3.84））
「ややそう思う」以上 50.8 %（67.2 %）
「全くそう思わない」 9.3 %（2.3 %）

5. 知識・技術の確実な定着のために、講義科目のみでなく、実習科目にも取り組んでいる（図4 平均値：3.80（4.06））

「ややそう思う」以上 67.6 % (75.8 %)

「全くそう思わない」 6.0 % (0.0 %)

5項目中全項目において、「ややそう思う」以上が過半数%を上回っていることから、**学科 教育課程の編成・実施の方針は概ね適切**と判断する。

ただし、2019年度の調査結果と比較をすると、2020年度の結果は全体で値が低下している。この低下の要因として、新型コロナウイルス感染拡大対策としての講義のオンライン化は少なからず影響があったものと推察される。特に、「知識・技術の確実な定着のために、講義科目のみでなく、実習科目にも取り組んでいる」については前期講義のオンライン化によって実習講義に困難があったものと推察される。一方で、本年度は回答者数が3倍程度増加した影響も推察できる。すなわち、回答者が少ない場合、アンケートに回答している時点で、意識の高い者が回答している可能性が高く学科全体を反映していなかった可能性があるということである。したがって、来年度以降の動向を注視していく必要がある。

